

令和7年度 瓜破中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、平均正答率において、「話すこと・聞くこと」の領域は-3.2%、「書くこと」の領域は-6.1%、「読むこと」の領域は-4.2%であった。問題形式では「記述式」が-7.0%であった。評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」いずれにおいても、書くこと、記述することに課題がある。

＜数学＞ 全国と比較して、平均正答率において、「関数」の領域は-7.2%、「データの活用」の領域は-15.3%であった。評価の観点「思考・判断・表現」が-8.4%であり、数学の知識を活かして課題を解決するような問題において課題が見られる。

＜理科＞ 全国と比較して、IRTバンド3の割合が-12.1%である一方、IRTバンド2の割合+11.1%であった。IRTバンド2の層に学力を定着させる取組が課題である。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 学習における記述の場面を増やし、記述に対する苦手意識を解消させる。

＜数学＞ 学習で培った知識・技能を活かして、諸課題の解決方法について考える機会を増加させ、データ活用能力を高める。

＜理科＞ 中低位層～低位層の学力の着実な定着に向け、基礎の反復や理科に興味を持たせる取組を重点的に行う。

令和7年度 瓜破中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—
